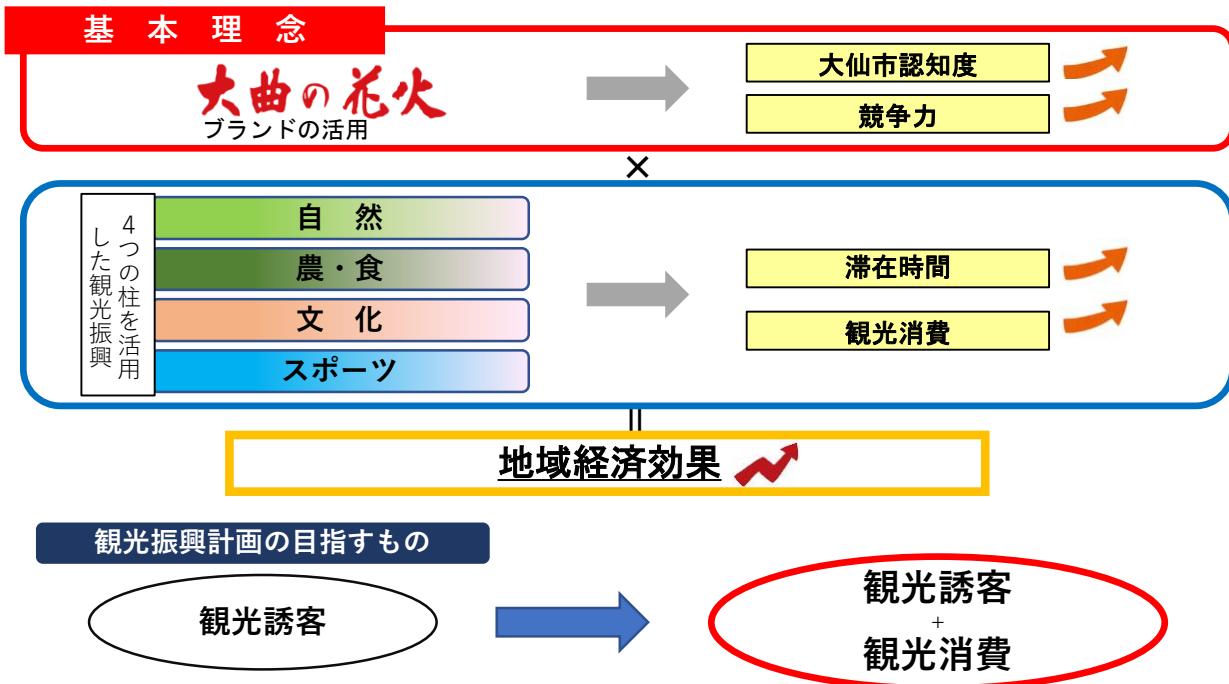


1 基本理念と数値目標

第2次観光振興計画が令和2年度で終了することと、この5年間の観光を取り巻く情勢の変化に対応し、さらに本市に観光客を呼び込むことを目的に「**第3次大仙市観光振興計画（計画期間：令和3年度～令和7年度）**」を策定します。

本計画では全国的なブランド力がある「大曲の花火」を本市の観光PRに最大限活用し、「花火振興」と「観光コンテンツ」の共創として、「観光誘客から観光消費へ」をスローガンに、観光誘客だけではなく観光消費の増加を目指すものとします。旅行者目線に立ち、旅行者が目的としたイベント・施設以外も訪問してもらえるような情報提供を行い、旅行者の滞在時間と消費行動の増加を目指します。

本計画では「地域経済効果の増加」を目的とし、またその目的に向け、「滞在時間（訪問回数）の増加」「観光消費の増加」を測る基準を数値目標として設定します。



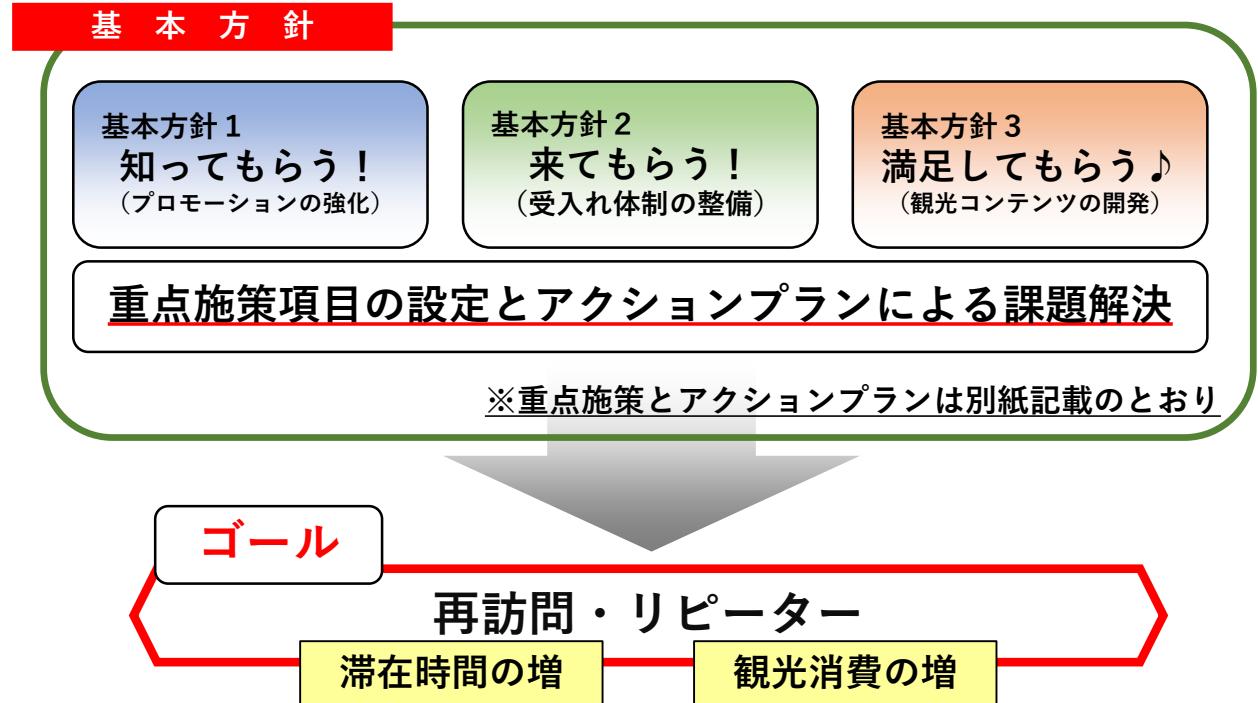
数値目標	令和元年 (現状値)	令和7年 (目標値)
1 主要観光施設入込客数	1,115 千人/年	1,227 千人/年
2 主要イベント入込客数	965 千人/年	1,062 千人/年
3 宿泊者数（全体）	154 千人/年	185 千人/年
4 外国人宿泊者数	3,102 人/年	3,257 人/年
5 大仙市観光物産協会お土産売上額※	36.7 百万円/年	44.0 百万円/年
6 道の駅3駅の売上※	317 百万円/年	380 百万円/年

※決算ベースで集計

2 観光振興計画の基本方針

旅行者目線で「旅マエ、旅ナカ、旅アト」の観光消費行動を意識し、旅行者が各シチュエーションで生じる課題を解決することで、旅行者の満足度向上ひいては再訪問・リピーターの創出につなげます。

基本方針で掲げた「知ってもらう！（プロモーションの強化）」・「来てもらう！（受入れ体制の整備）」・「満足してもらう♪（観光コンテンツの開発）」の方針に基づいた重点施策を設定し、具体的施策であるアクションプランを推進します。



3 連携と協働による効果的な取組の推進

本計画に基づく事業は、本市のほか、（一社）大仙市観光物産協会や大曲商工会議所、大仙市商工会、（一社）大曲青年会議所等の各種団体、県・関係市町村、民間事業者および市民等の多様な主体による連携と協働の体制で推進します。

また、庁内各部署や関係機関で行っている事業の共有を行い、効果的・効率的な観光誘客・観光消費につなげていきます。

本計画の進行管理は、毎年度事業の実施状況などを把握しながら、適切な進行管理を行います。

本計画に基づく観光施策の進捗に関しては、施策の実行性を高めていくため、実施する事業について、アクションプラン単位での事業実施結果の分析を行い、PDCAサイクルにより計画的な進捗管理を行うとともに、適切な評価・検証を行います。

(別紙) 重点施策とアクションプラン

方針	重点施策	アクションプラン		主な内容
知ってもらおう!	魅力の発信事業	1	デジタル媒体を活用した情報発信	・ SNSを活用した観光情報の発信を強化する。 ・ 観光コンテンツの市民モニター事業を行う。
		2	観光ガイドマップ等各種媒体による情報発信	・ 大仙市の魅力を伝える、リニューアルした観光ガイドマップを発行する。 ・ 宿泊施設情報の強化を行い、市内宿泊施設の利用促進を図る。
		3	国・県・各観光団体サイト掲載に向けた情報提供	・ 日本政府観光局や東北観光推進機構など、海外向けにコンテンツを発信しているサイトに本市のコンテンツ掲載を目指した情報提供や発信を行う。
		4	児童・生徒向け観光教育の推進	・ 教育カリキュラムの中に、本市の観光に関するプログラムを組み込んでもらえるよう教育関係機関への働きかけを行う。
	魅力の売り込み	5	首都圏への観光PRによる露出強化	・ 大仙ふるさとフェア等の観光物産展イベントを開催する。 ・ 首都圏での観光PRキャラバンに積極的に参加し、露出強化を図る。
		6	フィルム・コミッションによる魅力発信	・ 大仙市フィルム・コミッションの活動を促進し、メディアの受入れや観光素材の積極的な提供を行い、メディア露出強化を図る。
来てもらおう!	旅行者目線の情報提供	7	旅行行程のパッケージ発信	・ 「観光地+移動手段+食+宿泊」のベースプランを提示しながら、お客さまが組み換えながらベストチョイスができるようにする。
		8	農業体験メニューの情報集約による魅力向上	・ 大曲商工会議所、大仙市商工会などの会員などから広くコンテンツの収集を図り、訴求力のあるコンテンツを積極的に掲載する。
	上回遊性の向上	9	二次交通の体制整備	・ 二次交通トライアル事業を実施する。
		10	主要観光施設の案内サインの整備	・ 旅行者の行程を考慮し、自動車・徒歩の移動方法に応じた看板を設置する。 ・ 多言語対応の観光看板、施設内看板の整備を行う。
	観光拠点の魅力向上	11	「道の駅」の機能強化	・ アンケートや需要調査に基づき、魅力的な売り場づくりを行う。 ・ 道の駅内の観光案内機能の強化を図る。
		12	大仙市観光情報センターの機能強化	・ インフォメーションホールのリニューアルを実施する。 ・ カフェスペース等の設置による快適性の向上を図る。
満足してもらおう!	「イベント」と連携した観光への誘導強化	13	イベントと連携した情報発信	・ 全国花火競技大会をはじめとした四季の花火や、スポーツイベント、刈和野の大綱引きなどの全国的イベント周知の際には、他イベントや観光コンテンツを併せて情報発信を行い、各々のイベントの知名度を高める。
		14	スポーツ大会参加者等向け市内観光ツアーの実施	・ スポーツイベント（500歳野球、スポーツ合宿等）参加者向けの周遊プランを提供する。
	「体験」重視のコンテンツ開発	15	市民を巻き込んだ誘客イベントの開催支援	・ 大仙市地域イベントプロモーション事業を行う。 ・ 花火玉カーリング普及事業を行う。
		16	真木真昼県立自然公園と周辺の自然を活用した誘客事業	・ 大仙市の魅力発信のアイコンとして「真木真昼県立自然公園」を全面に押し出し、県外認知度の向上を図る。 ・ 大台スキー場と一体的な連携を図り、魅力向上と情報発信を行う。
		17	観光関係団体との連携強化による観光素材の掘起し	・ 仙北市や美郷町と連携した「大曲仙北観光圏域推進協議会」を活用し、積極的に「広域観光」を推進する。 ・ 市内観光施設間での情報共有を図り、それぞれの周辺観光情報を補完しあい情報発信力を強化する。
	観光資源の魅力づけと旅行商品開発に向けた取り組み	18	市内周遊コンテンツの開発	・ 市内道の駅を拠点とした周遊コースを企画する。 ・ ワークーションを見据えた、市内周遊コンテンツの情報提供を行う。
		19	まち歩きコンテンツの充実	・ 駅からはなび・アムまでの間に居心地のよい、歩きたくなる散策コースと休憩スポットの整備を目指す。 ・ 角間川、羽後長野、神宮寺など古いまち並み、酒蔵のあるまち並みでのまち歩きコースを設定する。
		20	文化観光の推進	・ 地域の歴史や文化施設・伝統文化等をストーリー仕立てに構成し、「文化観光パッケージ」として、ガイドツアーを行う。また、SNS等を活用しながら魅力を広く発信することにより、見学者数の増加を目指す。
	サービスの向上	21	おもてなし人材育成と体制整備	・ 観光ガイドの対応可能な観光地を紹介するとともに、手配予約も行う。 ・ おもてなしマイスターの確保と育成のため、講習会開催や周知啓発活動を実施する。
		22	大仙市食の定番メニューづくり	・ 市内酒造会社や麴屋等の発酵関連企業と連携し、大仙市の農畜産物を使用した麴商品を開発する。 ・ 「大仙市うまい米・うまい酒」都市宣言により国内外へ向けたPRにつなげる。